

# グローバル・リーダーシップ・セミナーin 台湾 研修報告

(令和4年度愛媛大学学生海外短期派遣・受入プログラム支援事業採択事業)

## 【目的・概要】

日本と台湾の学生が地域の歴史・文化等に触れるフィールドワークを行い、日台間の異同等に目を向けつつ、実社会において有用となるグローバルな感覚や、協働を促進するコミュニケーション・リーダーシップのあり方について実践的に学ぶことを目的としている。また、本研修は、国立高雄科技大学の学生を受け入れて毎夏実施する「自転車」をツールとした産学官連携事業「サイクリングプロジェクト」の海外派遣版である。このプロジェクトは平成29年に、愛媛大学リーダーズ・スクール（ELS）及びファシリテーションとリーダーシップ（EFL）修了生が中心となって立ち上げ、継続しているものである。このプロジェクトは今年度が5年目となり、コロナ禍を経て3年ぶりの対面での開催となった。オンラインで開催するなどの工夫により継続して実施してきたことから、回を重ねるごとに両国の学生間での相互交流が密になり、言葉の壁を越え、本プログラムで培った交流関係をもとにした学生間の自発的主体的な交流につながっている。今年の新規プログラムとして、フィールドワークに、日月潭や台湾電力の建設に関する歴史や日台における地政学、台南山上花園水道博物館を訪問し、台湾文化の理解を深める機会を持った。

## 【日時・場所】

日時：令和4年12月24日（土）～27日（火）

場所：国立高雄科技大学（台湾・国）

## 【実施体制】

主催：愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室、国立高雄科技大学（台湾・国）

協力：櫻前線日本語教育文化事業、台湾電力公司、台湾交通部観光局

学生リーダー：加勢田健照（工学部3年）、副リーダー：近藤美咲（社会共創学部1年）、  
野口恭吾（工学部1年）

実施責任担当教員：仲道雅輝（愛媛大学教育企画室 准教授）、村田晋也（同 講師）、  
許宏徳（国立高雄科技大学准教授、愛媛大学客員教授）、章至豪（同准教授）

## 【参加者数】

合計：学生48名（愛媛大学・国立高雄科技大学）

愛媛大学生参加者：23名（工学部4名、農学部1名、法文学部7名、社会共創学部8名、  
教育学部1名、理学部1名、人文社会学研究科1名）

国立高雄科技大学学生他参加者：25名

引率：4名（うち愛媛大学教員2名、国立高雄科技大学教員2名）

## 【学習成果】

現地では、烏山頭ダムを訪ね、ゆかりのある八田與一の足跡をたどった。また日月潭では、台湾電力の父といわれる新居浜出身松木幹一郎の足跡をたどり、台湾の電力開発における功績について、台湾電力公司職員から説明を受けた。また、台南山上花園水道博物館では、設計・建設に従事した日本人技師濱野弥四郎の功績を学ぶ機会となった。交流セミナーでは、日台における地政学について、許宏徳先生が講師となり「地政学から見た台湾及び日台関係」と題して講義があった。また、日台の学生間で、日本での神社のお参りの仕方やコミュニケーションのきっかけとしてよく取り上げる話題等をテーマに共通点や違いをもとに文化的背景についてプレゼン&ディスカッションを行い、相互の文化理解を深める機会となった。さらに、日月潭では、日台混合チームでサイクリングを行い、学生間での関係性が一気に深まった。最終日には本研修から得られた学びを今後の自分の取り組みにどのように活かせるか、学びと今後の展望をグループごとに発表して終了した。発表された内容として、オンラインでの事前の交流により、対面までに自己紹介や文化に関する紹介の機会があったことに加え、初めて対面で出会った学生同士が4日間お互いの強み・弱みを共有できる関係性を築くという体験を通じて、言葉が通じなくても勇気を出して伝えようとする大切さや、何事も全力で取り組むことの大切さの再認識、他の国々への関心の高まりなどが表現されていた。



開講式



日台のお土産交換



烏山頭ダム放水口での説明



烏山頭ダムでの集合写真



許先生による地政学講義



日台学生交流セミナーの様子



日月潭サイクリング集合写真



日月潭サイクリングの様子



台南山上花園水道博物館



日台学生の昼食の様子



成果発表の様子 1



成果発表の様子 2



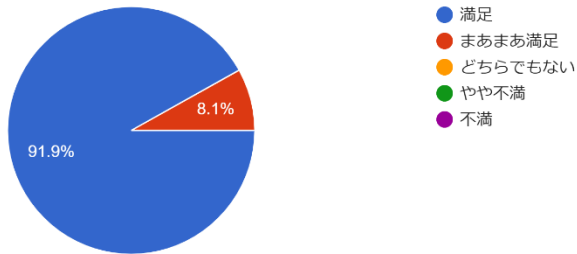
国立高雄科技大学前での集合写真

# GlobalLeaderShipSeminar2022 アンケート結果

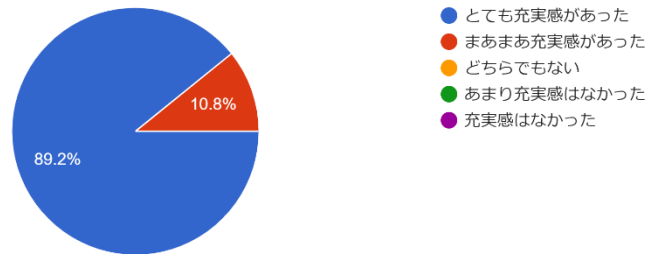
アンケート実施期間：2022年12月27日（火）～2023年1月6日（金）

アンケート回答者数：37名（参加者48名、回収率77.0%）

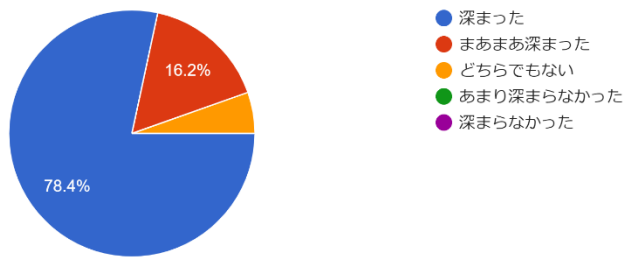
## 1. 満足度



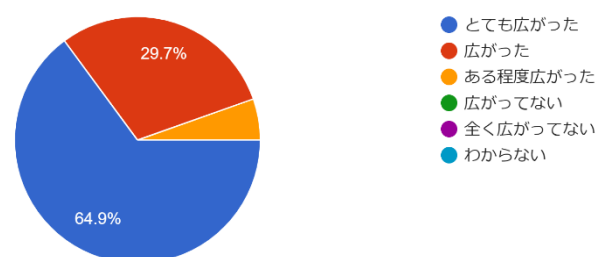
## 2. 充実感



## 3. 自国の文化や歴史、物の見方・考え方に対する理解



## 4. プログラムへの参加を通じて視野や思考が広がった



## 自由記述の回答（抜粋）

1	国際交流をした事で人の輪が広がったり、今まで気にしてこなかったことも考えるようになり、人として成長した点が良かったと思う。
2	It makes me know more friends whether they are Taiwanese or Japanese and it also makes me know more about other countries culture and other country's culture.
3	日本に帰ってきてテレビをつけた時に台湾の兵役が4ヶ月から1年に伸びたというニュースを目にして、すごくタイムリーさを感じた。今まで関心を持ってこなかった分野にこうして目が止まるようになったのは現状を知ったことが大きかったと思う。そういった意味で深まったと感じた。
4	日台関係の歴史、私たちが築いていかなければならない関係性について学ぶことができた
5	自国のことに関心がなさすぎることを知り、もっと知りたいと思った。そして、自分と年代の人がこれほど自国のこと、世界情勢について知っており、グローバルとして生きていることに衝撃を受けた。自分は悩みや考えがちっぽけだなって思った。
6	充実した4日間でした。プログラムに関するだけでなく、お互いの将来についても語り合うことが出来て本当に良かった。
7	私は国際法のゼミに所属しているのですが、卒論では、国際法の視点から日台関係を考えるようなテーマを取り扱いたいと思います。
8	まず、多くの人と関わって、自分の知見を広げることの重要性を学ぶことが出来た。そのため、自分の中で、人と関わることへの思考の変化が見られた。また、何かを伝えることの難しさや大変さを知り、今回のプロジェクトで四苦八苦する中で、自分の人へ伝えるスキルが向上したと感じる
9	It let me see the deficiencies of my Japanese language knowledge, which could arouse my inner motivation in improving my language ability.
10	将来、地域活性化において国際交流を進めていく際に、このプロジェクトで培ったスキル、柔軟性などを活かしていきたい。また自分自身の英語力、語学力のさらなる向上にも繋げていきたい